

OCW の動向と授業公開

新井 洋二

1 はじめに

2001年にMITで始まったOCW (Open Course Ware)は、日本でも、東京大学、京都大学、大阪大学、北海道大学、慶応大学、早稲田大学の6大学の参加で2005年に組織(JOCW)が設立された。現在までこれらの大学では引き続き講義ノートや授業ビデオなどが公開され増えつづけている。さらに、日本の主要な大学が次々にJOCWに加入している。(以下各大学の内容はおもにJOCWのwebサイト< www.jocw.jp >による。)

2 MITのOCWについて

1999年eラーニングを検討し、2001年eラーニングの企画を止めて、OCWを提案する。さらに、2007年までにすべての講義の公開を目標とする。2003年OCWを公式にwebサイトに掲載し、2007年に約1700コース公開して、2010年ほぼすべてのコースである約2000コース掲載中である。

その他、ユタ州立大学、カリフォルニア大学バークレー校なども講義公開を増やしている。アメリカ以外では日本の他、スペイン、台湾、中国、韓国でのOCWの組織が目立つ。2010年現在世界中で約13万コース公開されている。文系より理工系の方が公開講義数が多い傾向がみられる。

3 日本のOCWについて

2005年JOCW (Japan Open Course Ware)を6大学の参加で組織し、活動を開始した。最近では上智大学が参加し、2010年現在24大学が参加している。女子大学では栄養女子大学が唯一参加している。

その一般的特徴を次にあげる。

1. eラーニングのような遠隔教育や公開講座などに並行してOCWを開く大学が多く、一般にまだOCWの方が小規模である。
2. 著作権の関係で、日本でも文系より理工系の方が公開講義数が多い傾向がみられる。
3. 最近ではYouTubeやiTunesなどを利用して講義映像の公開が進んでいる。これは、講

義ノートに講義映像を加えると約2倍のアクセスがある効果のためである。

4. 月間アクセス数は各大学とも2010年で約2万～10万件である。
5. 近年これらの大学では、専属の処理機関を設ける傾向にある。

以下2010年のJOCWのイベントにて発表の各大学の公表資料によると、正規授業の公開講義数は次のようになっている。

大阪大 45	京都大 139 (2009年)
慶応大 45	東京工業大 672
東京大学 77	早稲田大学 71
九州大学 37	名古屋大学 138
北海道大学 102	

MIT に似て理工系であるためか、東京工業大学が頭抜けて多く、その熱心さが伺われる。

4 文科の情報処理の授業公開について

これまでは、教務システム「kyonet」に授業資料をアップロードして授業に利用してきた。OCWの理念を尊重して、共立女子大学のサイトの短期大学文科のページに、「ワープロとインターネット」、「ビジネス情報処理」、「情報リテラシー入門」の3科目の公開を試みた。

図1は文科の共通科目のページで、「教材」をクリックすると、図2へ。

図2はキャリアサポート科目の一覧のページで、このうち「ワープロとインターネット」、「ビジネス情報処理」、「情報リテラシー入門」の3科目を公開した。ここでは「ビジネス情報処理」を選択すると、図3へ。

図3は「ビジネス情報処理」の概要で、「教材はこちらから」をクリックすると図4へ。

図4は「ビジネス情報処理」の各章とその中の節見出しの一覧である。

図5は「ビジネス情報処理」の第4章の内容で、英文商用文書の授業内容である。

文科共通科目

【特色・カリキュラム】

リテラシー基礎(コース共通科目)

科目名が青字のところは、クリックすると内容が表示されます。

すべての科目のシラバスはこちらからご覧になれます ☞

さらに科目名の後に「[罫](#)」マークの付いている科目は、詳しい教材をご覧いただけます。

文章表現I

コミュニケーション論I コミュニケーション論II

プレゼンテーション論I プレゼンテーション論II

リテラシー基礎では、文章の書き方を基礎から学び表現する力を養い、自分の考えやアイデアをどうすればうまく伝えられるのか、その方法を学びます。

図1 文科の共通科目

キャリアサポート科目(コース共通科目)

ワープロとインターネット[罫](#)(日商PC検定2級筆記試験対応)

ビジネス情報処理[罫](#)(日商PC検定2級実技試験対応)

編集・出版の情報処理(DTP検定Ⅲ種対応)

情報リテラシー入門[罫](#)(文部科学省J検2級対応)

漢字を学ぶ(漢字検定対応)

観光英語を学ぶI(観光英語検定対応)

観光英語を学ぶII(観光英語検定対応)

秘書実務を学ぶI(秘書検定対応)

秘書実務を学ぶII(秘書検定対応)

キャリアサポート科目では、就職に役立つ資格を取るための授業や、社会人として必要な知識・技術を身につける授業が用意されています。

図2 キャリアサポート科目

ビジネス情報処理

見積書などの日本語事務文書やビジネスレターなどの英語の事務文書をWordで作成します。Excelで表計算とグラフ、Power Pointで発表会や製品紹介で使われるプレゼンテーションを学び、自分を主張する内容のソフトの作成をおこなっています。さらにインターネットで必須の知識であるホームページの作り方を学びます。さらに日本商工会議所2級ワープロ検定の実技試験に対応した授業もおこなっています。ビジネス分野の情報リテラシーの育成と資格取得の可能性を高めることを念頭としております。

教材はこちらから ☞

図3 「ビジネス情報処理」の概要

- 1 ビジネス情報処理ガイダンス
 - 1 「マイコンピュータ」の説明
 - 2 かな・ローマ字対応表
- 2 事務文書の作成－見積書(1)
 - 1 事務文書の種類
 - 2 文章部分の作成
- 3 事務文書の作成－見積書(2)
 - 1 Wordの表の処理
- 4 ビジネスレター(1)
 - 1 ビジネスレターの構成要素
 - 2 ビジネスレターの形式
 - 3 スpellチェックと文章校正

図4 「ビジネス情報処理」の各章とその中の節

4 ビジネスレター(1)

Wordでビジネスレター(英文商用文書)を作成しよう。

1 ビジネスレターの構成要素

1. Letterhead(頭書き)～自分の会社用のレターペーパーには、社名、住所などが、あらかじめ印刷されている。
2. Date(日付)～発行年月日
 アメリカ式 March 15, 1997 イギリス式 15th March, 1997
3. Inside Address(宛名)
 - Mr. ～男性の姓名の前に付ける。
 - Mrs. ～既婚婦人の姓名の前に付ける。
 - Miss ～未婚女性の姓名の前に付ける。

図5 「ビジネス情報処理」の第4章の内容

5 今後の課題

大学・短期大学の存在意義の理解に多いに役立つ活動であると考えられるが、次のような問題点もあり、さらに検討が必要である。

5.1 著作権と Creative Commons

著作権の検討については、掲載の先生方に任されている場合が多く、この問題のため公開を躊躇する先生も多い。

MIT の場合では、この問題を Creative Commons という組織の提唱する「帰属」「非営利」「継承」「改変禁止」について、著者の選択としている。

一般に制限を緩やかにする傾向にあるとのことである。

5.2 eduCommons

OCW の公開のシステムには、「eduCommons」が有名である。ユタ州立大学で開発され、OCW に特化したシステムソフトである。大阪大学、筑波大学などが使用しているが、業者委託に負うところが多いようで経済的に問題がある。

5.3 授業の映像配信

近年 JOCW の参加大学では、講義ノートの公開に加えて講義映像の公開が広がっている。インターネットでのアクセス数が約 2 倍になることが報告されている。人手がかかるので、外部委託などの工夫がおこなわれている。

5.4 JOCW への参加

JOCW への加入については、公開講義数 10 コース以上（必ずしもこだわらないとしているが）で、学長による大学単位の申請を条件にしている。今後の本学の活発な授業公開に期待したい。

6 謝辞

JOCW のサイトで各種イベントの発表資料や映像が公開されて非常に参考になりました。さらに今回の 3 科目の授業の web 上への公開は、文科の教員各位のご理解、本学の広報プロジェクト室の協力によるもので、あわせて感謝いたします。

7 参考文献

MIT Open Course Ware. Web. 2011/9/12 < <http://ocw.mit.edu> >

福原美三 "日本におけるオープンコースウェアの現状と課題・展望" 情報管理 Vol.49, No.6 p.301 2006 年

(JOCW サイト提供) 平成 22 年度情報教育研究集会「オープンコースウェアのインパクトと将来展望」2010 年 12 月 Web. 2011/9/12 < <http://www.jocw.jp> >

(JOCW サイト提供) 平成 22 年度工学・工業教育研究講演会、オーガナイズドセッション「オープンコースウェアとその応用」2010 年 8 月 Web. 2011/9/12 < <http://www.jocw.jp> >

(JOCW サイト提供) 平成 21 年度工学・工業教育研究講演会オーガナイズドセッション、

「オープンコンテンツとその応用」2009年8月 Web. 2011/9/12 < <http://www.jocw.jp> >

(JOCW サイト提供) 平成 20 年度情報教育研究集会「オープンコンテンツの世界的潮流」
2008年12月 Web. 2011/9/12 < <http://www.jocw.jp> >

(JOCW サイト提供)「高等教育オープンコンテンツに関する知財セミナー」慶應義塾大
学 2007年4月 Web. 2011/9/12 < <http://www.jocw.jp> >

Summary

The OCW Movement and a Trial of Open Course Ware

Yoji Arai

MIT announced the idea of OpenCourseWare in 2001. MIT OpenCourseWare is a free publication of course materials and a web-based publication of virtually all course content. The OpenCourseWare Consortium was established in 2006 internationally. The OpenCourseWare Consortium associated organizations worldwide and its impact gives global educational opportunity. And 130,000 courses have been published over the world in 2010.

In this paper, three courses of information technology lesson in our college opened as the open course ware examples in our website. The open files are HTML style files. Many educational materials will be expected to open through the OCW movement further.